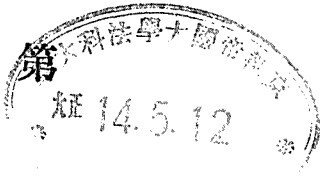


大正五年四月六日第三種郵便物認可大正十四年四月二十五日印刷納本(毎月一回一日發行)

哲 學 研 究

第十卷 第五册

第一百十號



大正十四年五月一日發行

- ミケランゼロ……………文學士 植田 壽藏
- 現代に於ける教育學の基礎付け(二)……………文學士 長 田 新
- ……………文學士 河 瀨 憲 次
- フイヒテの知識學に關する一考察……………文學士 河 瀨 憲 次
- ……………文學士 河 瀨 憲 次
- 理念に就いての歴史的と非歴史的……………ロバート・シンチンゲル
- ……………文學士 高 坂 正 顯
- 歴史的時間の問題(ツンメル)……………文學士 高 坂 正 顯

京 都 帝 國 大 學 文 學 部 內

京 都 哲 學 會

京都哲學會規則

- 第一條 本會ヲ京都哲學會ト稱ス
- 第二條 本會ハ廣義ニ於ケル哲學ノ研究及其普及ヲ以テ目的トス
- 第三條 本會ハ前條ノ目的ヲ達センガ爲メ左ノ事業ヲ行フ
- 一、毎月一回研究会ヲ開ク
 - 一、毎年春秋二回公開講演會ヲ開ク
 - 一、毎月一回雜誌『哲學研究』ヲ發行ス
- 第四條 本會事務所ヲ京都帝國大學文學部内ニ置ク
- 第五條 本會ノ事業ヲ經營スル爲メニ左ノ役員ヲ置ク
- 一、委員(若干名) 京都帝國大學文學部哲學科教官及委員會ニ於テ推薦シタル者ヲ以テ之ニ充ツ
 - 一、書記(一名) 委員會ニ於テ囑託ス
- 第六條 本會ノ趣旨ニ賛同スル者ハ何人ニテモ 會員タルコトヲ得 學校、圖書館、教育會、其他ノ團體ハ其團體ノ名ヲ以テ入會スルコトヲ得
- 第七條 會員ハ會費トシテ年四圓四拾錢、前後二期ニ分チテ前納スベキモノトス
- 第八條 會員ハ本會ノ諸種ノ會合ニ出席スルコトヲ得且ツ雜誌、『哲學研究』ノ配付ヲ受ク
- 第九條 本會規則ノ改正變更ハ委員會ノ決議ニ依ル

京都哲學會役員

委員

文學士	文學士	文學士	文學士	文學士	文學士	文學士	文學士	文學士	文學士	文學士	文學士	文學士	文學士	文學士	文學士	
伊藤	植田	狩野	小西	高坂	澤村	高瀬	田邊	千葉	朝永	西田	野上	波多	深田	藤井	松本	米田
猷典	壽藏	直喜	重直	正顯	專太	武次	邊胤	葉胤	三十郎	幾多郎	俊一夫	精一	康算	健治郎	文三郎	庄太郎

京都哲學會春季講演大會

五月廿三日(土曜)午後一時半より

法學部第四教室に於て

無明原理論

文學士 手島文倉君

惡に就て

文學博士 西晋一郎君

前 號 目 次

現代に於ける教育學の基礎付け……………	文學士 長 田 新
フキヒテの知識學に關する一考察……………	文學士 河 瀨 憲 次
直觀知と物自體……………	文學博士 田 邊 元
講義題目、其他……………	

告 會

一、本會へ入會希望者へ京都市西洞院七條南内外出版株式會社内京都哲學會宛テニ規定ノ會費(前表紙裏ニアリ)御納付ノ上御申込被下度候

一、會員ニシテ轉居入退會等(編輯事務以外ノ一切)ノ事務ハ内外出版株式會社内京都哲學會へ御通知被下度候

一、會費ハ振替口座大阪〇六六三番、内外出版株式會社内京都哲學會宛テニ御拂込被下度候

一、本誌ノ編輯ニ關スル通信及紹介、新刊書、寄贈雜誌等ハ凡テ本會宛テニ御發送被下度候

京都帝國大學
文學部内
京都哲學會

註 文 規 定

◎ 會員にあらざる購讀者の御註文及び廣告に關する件は内外出版株式會社へ御申込下され度候

◎ 本誌の御註文はすべて代金郵稅共前金にて御送り下さるべく候

◎ 振替貯金にて御送金 (振替大阪三三九五番三三九三一番東京三三九三一番) 内外出版株式會社宛に願上候

◎ 前金切れの場合は帶封に「前金切」の印章捺捺致すべきに付直に御拂込下され度候

◎ 下に請求書及領收書等を要する場合は郵券參錢御送付下され度候

定 價

冊	冊	冊	冊	冊
一	一	一	一	一
冊	冊	冊	冊	冊
金四拾錢	金四拾錢	金四拾錢	金四拾錢	金四拾錢
不	不	不	不	不
申	申	申	申	申
受	受	受	受	受

廣 告 料 一頁 金參拾圓 半頁ハ取扱不申

大正十四年四月廿五日印刷納本
大正十四年五月一日發行
第百十號 第十卷 第五册

製複許不
載轉禁

編輯者 京都帝國大學文學部内 京都哲學會
右代表者 伊藤猷典
發行者 大谷仁兵衛
印刷者 須磨勘兵衛
印刷所 内外出版株式會社印刷部
京都市北小路通新町
京都市三條通御幸町
西入五十四番地

發行所

京都市下京區西洞院七條南 内外出版株式會社

本社 京都市下京區西洞院通七條南
出張所 京都市京橋區加賀町十番地 内外出版株式會社
販賣所 京都市神田區錦町一ノ一 東京堂 東海堂 北隆館

賣捌所 (大阪) 盛文館 三文社
(神戸) 寶文館 川瀬書店
(京都) 共盛社 大盛社

京都帝國大學 文學部教授 文學博士 高瀬武次郎著

再刊

陸象山

四六判三百余頁
ボブリン美装
定價金貳圓參拾錢
書留送料拾八錢

『明本心』を説いて心學に萬古不易の原理を据ゑた陸象山の人物、學說並に其後繼者を詳細に説いてある、然も其言々句々悉く博士の牢乎たる自信と絶倫の造詣から迸出したもの、當に東洋倫理の絶好參考なるに止らず一般修養上の快籍でもある。(讀賣評)

廣島高師 教授 西晋一郎 序文 ◆ 廣島高師 教授 服部富三郎著

再刊

東洋道德原論

四六判四百五十頁
ボブリン美装
定價金貳圓八拾錢
書留送料拾八錢

支那の古典と我邦の國體とに本づきて、東洋道德の真相を摺み、組織的に、徹底的に、發揮闡明して東洋學術に於ける從來の迷夢を醒覺せんとするものなり。今回著者に請ひて之を印行し、敢て東洋道德の真相を知らんとする人士に一讀を勸む。

大正五年四月六日(大正十四年四月二十五日)印刷 刷納本 手厚冊 百五十七頁 定價金貳圓

東京 東洋書局 九一ノ一町錦田神京東 社會式株版出外内 南條七院洞西市都京 番七六七四五東京替振 番一三九三版大替振 本社